

# 劇台本『注文の多い料理店 ～山猫軒へようこそ？～』

(上演時間：約20分 / 登場人物：15人)

## 登場人物 (15人)

1. ナレーター1
2. ナレーター2
3. 紳士A (猟装の青年。自信家)
4. 紳士B (猟装の青年。調子者)
5. 猟犬A (元気)
6. 猟犬B (勇敢)
7. 山猫の料理長 (ボス)
8. 山猫の給仕長 (ていねい口調)
9. 山猫のコック1
10. 山猫のコック2
11. 山猫のコック3
12. 札の声1 (看板・掲示の“声”)
13. 札の声2
14. 札の声3
15. 森の精 (風の化身 / 環境音の呼びかけ)

兼任例：効果音 (風・鳥・ドア) は「森の精」「札の声」担当が追加で実施可。

## 小道具・装置

- ・扉パネル3枚 (入口・中間・最終)
- ・看板 / 張り紙ボード (大：店名 / 小：指示文)
- ・帽子・マント (紳士用 / 脱ぎやすい)・ストール
- ・空のびん (ヘアクリーム / バター / 香水のラベル)
- ・白紙ふぶき (塩の見立て。肌に触れさせない)
- ・犬耳カチューシャ・しっぽ / 山猫の耳・エプロン・コック帽
- ・ほうき・布 (清掃や撤収の所作に)

## 第1幕「森で迷子、看板が呼ぶ」(約6～7分)

[チャプター1：森の入口]

(森の音。舞台に緑の明かり。森の精が風の所作)

ナレーター1「ここは深い森。道は細く、風はすこし冷たい。」

ナレーター2「二人の紳士が、猟にやってきました。」

(紳士A・B入場。猟犬A・Bは少し先行)

紳士A「山鳥がいないな。森の奥へ行こう。」

紳士B「だいじょうぶさ。ぼくたち都会の紳士だよ？」

猟犬A「ワン！(先を指す)」

猟犬B「ワンワン！(奥へ)」

森の精「(ささやく)足もとに気をつけて……。」

ナレーター1「やがて足音は、ふいに止まりました。」

(犬の気配が消える。短い静寂)

紳士B「……あれ？ 犬たちの声がしない。」

紳士A「大丈夫だ。ほら、あれを見て！」

[チャプター2：不思議な看板]

(看板を掲げるスタッフ登場。「西洋料理店 山猫軒」)

札の声1「ようこそ。『西洋料理店 山猫軒』へ。」

紳士A「レストラン？ 森の中に？ いいじゃないか。」

紳士B「ちょうどお腹がすいたところ！」

ナレーター2「二人は扉を開けました。中からは、いい匂い……のような、少し奇妙な匂い……。」

(手拍子の導入の歌：二拍×4小節)

全員「 トントンドンドン 戸をたたく / おなかはグーグー 森のまんなか / ようこそ不思議な  
山猫軒 / お約束はあとでね」

## 第2幕「注文の多い店内」（約7分）

[チャプター3：最初の部屋]

(白い壁パネル。張り紙が多い)

札の声2「お客様へ。本店は『注文の多い料理店』です。まず身だしなみを整えましょう。」

紳士B「注文が多いのは、良いサービスってことだね！」

紳士A「紳士たるもの身だしなみは完璧に。(帽子をとる所作)」

札の声3「帽子と上着はお脱ぎください。ほこりは料理の大敵です。」

(安全のため、帽子とストールを外してハンガーへ)

ナレーター1「二人は言われるまま。なんだか、少しひんやり。」

森の精「(そよ風の所作)ひとつ、ふたつ、命のあたたかさ。」

[チャプター4：次の部屋へ]

(扉パネルを移動。張り紙が増える)

札の声1「くつをきれいに。ピカピカだと、お料理も微笑みます。」

(“磨くふり”でOK)

札の声2「ヘアクリームをよく塗り、髪を整えてください。」

(空のびんで“塗るふり”。観客に見える大きい所作でコミカルに)

紳士B「ぼく、テカテカになってきたよ。」

紳士A「サービスが行き届いている証拠さ。」

ナレーター2「そして、いよいよ“お料理らしい注文”が……。」

[チャプター5：本当に多い注文]

札の声3「顔と手をよく洗い、香水をたっぷり。」

(空のスプレーを“プシュッ”。紳士らがむせてコミカル)

札の声1「体に塩をよくまぶし、バターを薄くぬり……。」

(白紙ふぶきで“塩”の見立て、衣服の外側に振るだけ。バターは“ぬるマネ”のみ)

紳士B「……ねえ、A。なんだかおかしくない？」

紳士A「気のせいさ。グルメには下ごしらえが必要なんだろう。」

森の精「(ささやく)ほんとうの“注文”は、だれのため？」

(奥から山猫の給仕長・コック1~3が影のシルエットで登場)

ナレーター1「背筋に冷たいものが走ります。」

札の声2「最後の部屋では、静かに立ってお待ちください。すぐ“いただきます”。」

紳士B「“いただきます”って……ぼくらが？」

### 第3幕「ほんとうの客はだれ？」（約6～7分）

[チャプター6：山猫の厨房]

（不穏なBGM。赤～紫の照明。最奥の扉が開く）

山猫の料理長「ご来店、まことにありがとうございます。本日のおすすめは…… “よく手入れされたお二人”。」

紳士A「や、やっぱり……ぼくらが“食べられる”のか！」

山猫の給仕長「当店は“注文の多い料理店”。お客様に願いを重ね、いちばんおいしい状態で……。」

コック1・2・3「仕上げます。」

ナレーター2「ふたりは、やっと気づきました。」

紳士B「ぼくたち……むやみに偉そうだった。森のルールも礼も、忘れてた。」

紳士A「助けて……！」

[チャプター7：救出と学び]

（遠くで犬の鳴き声。「ワン！」「ワンワン！」）

猟犬A「ワン！（駆け込む）」

猟犬B「ワンワン！（山猫たちに吠える。 追いかける“所作”のみ）」

山猫の料理長「うむ、犬は苦手だ。撤収だ、撤収！」

山猫の給仕長/コックたち「（あわてて退場。張り紙を片付け、カーテンに消える）」

森の精（所作）「風が払うと、看板は倒れる。」

ナレーター1「たくさんの注文は、煙のように消えました。」

紳士A「犬たち、ありがとう……。」

紳士B「ぼくら、森と命に“礼”を言うのを忘れてた。」

森の精「気づけばいい。次は、忘れないで。」

（フィナーレ合唱）

全員「 ありがとう 森の道 / 風の声に 耳をすます / いただきますはいのちへ礼 / 心をそろえ 帰ろうよ」

ナレーター2「こうして二人は、森の外れへ戻っていきました。」

ナレーター1「“いただきます”は、食べる側の合言葉。たくさんのいのちへ、ありがとう。」

（全員で礼。幕）

### 上演・演出メモ（先生向け）

#### 【時間調整】

- ・第1幕：導入歌を1～2コーラス追加可。
- ・第2幕：張り紙の“注文”を1～2つ増減で調整（例：「手袋を外す」「ポケットの中身を棚へ」など、安全な“外す所作”）。
- ・第3幕：救出場面は所作中心で勢いを。走り・接触はNG。

#### 【安全・表現】

- ・「塩」「バター」は見立てのみ。肌に触れさせない。
- ・“脱ぐ”は帽子・ストール・マントのみ。衣服は脱がない。
- ・追いかけては歩幅小さく、ステップで。

#### 【美術・音】

- ・看板や張り紙は文字大きく。客席にも読ませて“笑い”を取る。
- ・効果音：風（シェーカー）・戸の開閉（木片）・犬（コール&レスポンス）。

【学びの柱】

- ・礼節（身だしなみは“ だれのため？ ”）。
- ・「いただきます」の意味（命への感謝）。
- ・思い込み・慢心への気づき。